

# 医療ソーシャルワーカー



## あるあるネタ

- 患者から「先生」って呼ばれがちだけど、実は“相談員”です。
- 「退院支援」と聞くと、無意識に頭の中でスケジュールとケアマップを描き始める。
- 言葉にされない“ため息”の意味を、誰よりも敏感に察知する。

## 初期の失敗

初めて退院調整を担当したとき、医師の言葉ばかりに気を取られてしまい、患者本人の不安を十分に聴けなかったことがあります。医療の間に立つ“心の通訳”の意味をそこで知りました。

## 職業病

相談内容を整理する癖がつき、友人との会話でも「今のは情報」「これは感情」「次は行動」などと無意識に分類。あと「聴く姿勢」が日常的にプロモードになる。

## 健康問題

人の悩みや葛藤に日々寄り添うため、感情的な疲労・共感疲労・燃え尽き症候群のリスクが高く、心身両方のセルフケアが不可欠。デスクワークによる首肩のこりも慢性化しがちです。

## その職業に就いている人を讃える

あなたはまさに“病院の心の水先案内人”ですね。治療の終わりではなく、“その人のこれから”を支えるために、聞いて、寄り添って、つないで、伴走していく。制度の壁も、感情のもつれも、あなたの声と手で少しずつほぐされていく。そのやさしい橋渡しが、どれだけの不安と孤独を救ってきたか。どうか、誰かの心に寄り添うだけでなく、ご自身の心にもやさしく。あなたの“話を聴く力”が、これからも希望の声を引き出していきますように。